H. KAWAMURA et al: A Study of the physical
education in Renaissance Italy

ルネサンスにおけるイタリアの体育

名古屋大学	川	村	英	男
名古屋大学	八	木	菊	郎
名古屋市立大学	田	中		宏
愛知県立女子大学	高	松	守	一
愛知教育大学	川	島	虎	雄
名古屋学院大学	早	川	洋	一
日本福祉大学	加	賀	秀	雄

1. 研究のねらい

われわれは古代、中世の体育史研究について、近世への先駆となつたルネサンスにおけるイタリアの体育に焦点を合わせて考察を進めた。その際の研究の視点として、ルネサンスの歴史的背景とその展開過程を考察しつつ、それと体育的事象、ここではとくに体育の思想面、実際面との間の相関性をつかみ、その特性を明らかにすることによつて、ルネサンスにおけるイタリアの体育が果たした意義や役割を明確にしようと試みた。

2. 体育思想の展開

12世紀から16世紀にかけて、イタリアを中心に起つたルネサンスは、古典古代の文化を教訓としながら、近世への歴史をきり開いた文化運動であつた。しかもルネサンスは、中世ヨーロッパの変貌過程において生成し、発展した文化運動であり、従つてその過程での社会経済的な要因の影響を強く受けていた。確かにこの時期のヨーロッパでは、イタリア

諸都市を中心とする遠隔地貿易の発展、都市の発達、商工業の勃興、貨幣経済の進展などの社会経済的な要因によつて、中世の伝統的な社会秩序は切り崩され、教会や封建貴族の宗教上、身分上の権威は、徐々に衰退する傾向を示し始めていた。その意味でルネサンスは古典古代に繁栄した文化を教訓にししながら、人間の可能性とそれにもとづく文化を導き出す、新しい社会秩序を形成する役割をはたすこととなつた。そしてそれを母胎に、ヨーロッパは宗教改革を経験し、啓蒙思想をそだて、さらには市民革命へと進む過程をたどることになるのである。

ただここで注目しなければならないのは、ルネサンスの担い手が、イタリア諸都市を中心に生まれた大商人を中心とする富裕な新興市民層と、依然として一定の勢力を保つていた封建勢力であつたという事実である。その限りでルネサンスは、新興市民層に支えられていたとはいえ、その内実は富裕市民によつて担われるという性格を持っていた。と同時に

にルネサンスは、封建勢力にかわつて、新興市民層に主導権が移ろうとする社会的な状況のなかで、依然として両者が混在するいわば過渡的な時代的推移のなかで生まれてきた文化運動でもあつた。

だがいずれにしても、人間の能力とその可能性を引き出したルネサンスは、やがて身体的な能力に対する関心を高める結果となつた。このような事態を反映して、この時期の著名な識者たちは体育に対して相当積極的な関心を示した。その関心の方向は、単なる身体的な意味からではなく、心身の調和的な発達という教育理想からであつた。このことはギリシャの精神にかえることであつて、別の言葉をもつてするならば、ルネサンス的万能人 *homo universalis, all-sided man* の教育に他ならなかつた。シルヴィウス (Aeneas Silvius, 1405~1464)* は「精神と身体とはともに相たずさえて発達させらるべきである」(Both mind and body should be developed side by side) とし、ヴェルゲリウス (Pietro Paolo Vergerio, 1349~1420)** は「文と武 (arms and letters)、は二つの重要な教養 (liberal arts) の面であるとした」¹⁾

* Silvius または Sylvius, 後に教皇 Pius II となつた人で通称 Piccolomini.

** Vergerio または Vergerius.

シルヴィウスはその著「自由教育」(De liberorum educatione) の中で、ヴェルゲリウスは「本然道徳ならびに自由教育」(De ingenius moribus ac liberalibus studiis libellus) の中で、それぞれ体育に関する意見を開陳しており、ヴェジオ (Maffeo Vegio, 1406~1458) は、「児童教育および彼等の美徳」(De educatione liberorum et clariorum moribus) の第3巻で体育を論じている²⁾。

これらの人々は、体育のほか道徳教育にも意を注いでいる。例えばヴェルゲリウスは「過度」をいまして怠慢を排しており、有

名なヴィットリノ (Vittorino da Feltre, 1378~1445) は、喜びの中で正しい礼儀作法や厳しい躰をすることの必要を唱えている。その背後には中世以来のキリスト教的な道徳思想がなお反映していたものと考えられる。われわれは、封建制度とキリスト教とによつて培われた騎士教育の理想が、都市的環境の中で、古代ギリシャの思想によつて新たに展開されたのが、この期の教育および体育の思想であつたと解釈するのである。そして「騎士」にかわつて教育および体育者の理想像となつたものが「廷臣」(Cortegiano) にほかならなかつた。この両者の相違は、中世の騎士が「血統」(Birth) と「土地」(Wealth) を重んじたのに対して、ルネサンスの「廷臣」は「名誉」と「地位」を重んじたというところにある。この「名誉」と「地位」は自由人としてのルネサンス市民が、自己の能力を多方面に発揮することによつて獲得しうるものであつたのである。カステイリオーネ (Baldassare Castiglione, 1478~1529) が「廷臣論」(Il Cortegiano) の中で描いたものは、名誉と地位をもつた宮廷人の姿であつた。当時の有名な画家の一人ボッティチェルリ (Sandro Botticelli, 1444~1510) は、この廷臣をその題材として選び、理想的な社交的紳士としてこれを表現した。

これらの点から、当時の教育家や芸術家たちは、都市における貴族階級の宮廷を舞台として、そこに活躍する廷臣をその理想像としてかれらの脳裡に描いていたと考えられる。ブルクハルト (Jakob Burckhard, 1818~1897) は、この「完全な社交人」としての廷臣について、つぎのように述べている³⁾。

「真先に廷臣に求められるものは謂所騎士的訓練の完成である。之に加うるに……………宮廷ならでは要求されえないような更に多くの他の諸芸能が求められる。しかも又その多くが明瞭に唯個人的完成という普通的な殆んど抽象に近い概念に基く、即ち廷臣たる者は凡

そ総ゆる高尚な遊戯に熟達しておられねばならない」。ついで彼は、そのために必要とされた運動として、跳躍、競走、水泳、相撲、舞踏、乗馬をあげ、また延臣の教養として文芸、芸術も欠くべからざるものであつたとしている。そして、これらが渾然と融合するところに「絶対的個人」が形成されるので、これこそルネサンス人にとつての理想像であつたのだと述べている。

また、これらの騎士的運動やスポーツ、ダンスおよび文芸、芸術は、宮廷という華やかな舞台にふさわしく、優美さをもつまでに洗練されることが必要であつた。この点については、ルネサンス美術と同じく、宮廷文化という面からもこれらの諸活動がとりあげられていたといえる。このことは、他面からいへば、調和と善美を理想としたギリシャ精神の再現であつたのである。

さて、「廷臣」が宮廷を背景とした貴族的人間であつたこと、宮廷生活には騎士社会の生活が受け継がれていたことなどから、この期の体育思想が、中世的性格を脱しきれなかつたことは当然というべきであろう。また体育の唱道者たちは、いづれも当時の上層階級の人々であり、貴族の子弟の教育に関興した人々であつたことも、この時代の体育思想を特色づけた一因である。例えばヴェルゲリウスはパドヴァ大学教授、シルヴィウスは司教からピウスⅡ世となつた人、ヴィットリノは宮廷学校の教師であつたときである。

3. 体育の実際

すでに明らかにしたように、ルネサンスにおけるイタリアの体育は、貴族や富裕市民の私的教育制度のなかで行れたものであつて、社会制度として広く行われたものではなかつた。このため、当時の教育家たちの論述は、社会的視点よりなされたものではなく、個人的教養の立場からなされたものであつた。したがつて、これらの人々の間には個人的差異

は多少あつたとしても、各種の運動を広い人文的教養の中に位置づけようとしたことが、共通点としてあげられる。また、騎士的運動や走跳投などのギリシヤ的スポーツおよびゲーム、水泳、ダンスなどが廷臣や万能人を育てるために奨励されたことも、共通した特徴であつた。

人文的教養の重要な側面として体育がとりあげられ、しかも広範な諸活動が奨励または指導されたことは、当時の教育家たちの理想からすれば当然のことであつた。また騎士的運動が重んじられたことは、都市化された騎士社会が生活理想であつたというルネサンスの過渡期的な性格を反映したものであつた。このことはさきにあげた「廷臣」についてみるならば、つぎのようにいふことができる。

ルネサンスにおけるイタリアの体育は、「廷臣」を理想とし、その廷臣としての資格、あるいは名誉、面目を保つための身体的諸能力の獲得をめざすものであつた。その方法として、騎士的運動をはじめ、ギリシヤ的スポーツその他の運動がとりあげられたのである。

しかし、当時のイタリア市民（貴族、富裕市民など）の体育のねらいは、これにつぎるものではなかつた。というのは、武術が戦争との関係でとりあげられていたからである。例えば、ヴェジオが「国家においては安寧を、個人においては安全を保つために必要な戦争の技術を身につけること」を、シルヴィウスが「成人として軍務に服する少年のために」、それぞれ戦場に役立つ運動を課することが必要だとしたこと⁴⁾、このことを知ることができる。しかし、このことは当時の体育の本質というべきではなく、中世以来騎士階級に課せられた任務の継承とみるべきであつて、その本質は「廷臣」的人間の形成にあつたとすべきであろう。ヴェルゲリウスのように、一人が万事に通ずることは困難であるから、個人差に注意しなければならないと注意した者もあつたが、一般的にいへば、万能人あ

るいは「一切具足の人」を目標として、多種多様の運動に習熟することが望まれたのであつた。そして習熟は廷臣にふさわしい優美さにまで達することが必要であり、このためダンスが、カスティリオーネ、ピッコロミニ、グアリーノ (Guarino da Verone, 1370~1461) などによつて推称された⁵⁾。しかしなかには、ヴェルゲリウスやヴェジオのように、ダンスは女々しさに通ずるものがあるとして、これに耽ることを戒めた者もあつた⁶⁾。またアルベルティ (Lenoe Batista Alberti, 1404~1472) のように、騎士的運動にはげんで粗暴になつてはならぬと注意をした人もあつた⁷⁾。いわば強さと優美さの綜合された人、それが廷臣という人間の姿であつたと考えられる。

この期の体育でとくに注意すべき一人は、ヴィットリノであろう。彼は人文主義的教育理想によつて、自ら彼の学校で体育の指導に当つたのである。その学校は「よろこびの家」(La Giocosa) とよれば、健康的な環境の中に設けられ、明い雰囲気満たされていた。その実際の指導はきびしく、体育は天候の如何にかかわりなくプログラムにしたがつて実行され、その運動はさきにあげたような多くの種類にわたつていた。さらにその内容をみると、軍人となる貴族の若者と一般市民の少年たちの間には相違があり、それぞれに応ずるプログラムが用意されていた。また健康でない少年たちには、それに適するようにプログラムが工夫されていた。個人差を認めてそれに応ずる内容が考えられかつ実施されたことは、今日においても十分注意されるべきことである。

さきにあげたヴェルゲリウスも身体運動について、「これを選択する場合には、各個人の条件をある程度考慮することが必要である」⁸⁾としているが、このような個性の尊重ということはルネサンスの特性でもあつた。

またヴィットリノは子供の人格の尊重や教師の率先垂範を説いたのみでなく、身をもつ

てこれを実践し、自らを「門弟の父」とよんで子弟と生活を共にし、運動も一緒に行つた。かつ学校経営の上にも教師の人格を重んじて当つた。このような彼の態度、識見は敬服に値するものである。

このように教育的な立場から各種の運動を指導することが、この時期のイタリア体育の特性であつたが、また運動をレクリエーションの面から考えた人もあつた。例えばヴェルゲリウスにそれをみることができる⁹⁾。

なおこの時代は科学の進歩においても重要な時期であつたが、体育においてもその一面をうかがうことができる。

例えばメルクリアリス (Hieronymus Mercurialis, 1530~1606) は医師であつたが古典に詳しく、ギリシャ体育に関する文献を蒐集した。そして、医学の発達に裏づけられた科学的な知識にもとづいて、古代体育を検討してその価値を論じた。その意味で彼の著書「古代体育」(De Arte Gymnastica) は、医学の立場から科学的に体育をとらえようとした点で、高く評価することができる。

4. 庶民生活に於けるスポーツ

イタリアのルネサンスは、経済力をもつた新興の富裕市民を中心に促進されたものであつたが、騎士的スポーツはこの人々の間に人気があり、わけでも闘技会は富裕な市民たちが好んで参加しようとしたものであつた。ペトラルカ (Francesco Petrarca, 1304~1374) などは、トーナメントは危険でしかも馬鹿気なものだとさげすんだのであつたが、盛んに行われ、とくにフィレンツェで行われたトーナメントは大規模であつたといわれる。このことには、メディチ家がトーナメントに力をいれたことも大きな刺激になつていたにちがいない。

同時に、新興の富裕市民たちにとつては、中世的遺物というべき「騎士」の称号が大きな魅力であつたことも見逃しえない¹⁰⁾。すな

わち、トーナメントに参加するためには、たとえ形式的にもせよ、「騎士」であることが必要であつたし、かつ危険な試合は彼らの力量と勇気を発揮して名声をかちとる好機でもあつた。したがつて、地位や名声をあこがれる人々にとつては、このトーナメントは見逃し得ないスポーツであつたのである。財力はあつても地位や権威をもたない新興の富裕市民たちが、かつての地位と権威を伴つた騎士の活動や服装によつて、その名誉慾を満たそうとしたことは十分に推察しうることである。

騎士的スポーツは、これを観る一般の市民にとつては魅力のある娯楽であつた。大群集にとりかこまれたトーナメントは、やがて、武力よりも財力を、武術よりも身体的趣味を誇る傾向を生じ、競技者も観衆も服装の美を競うごとき有様になつていつたとつたえられている。

トーナメントについて人気のあつたスポーツはカルチョ (Calcio) であつた。これはかなり組織化されたフットボールに似た球技であつた。フィレンツェをはじめイタリア諸都市ではこれが広く行われていた。このゲームには無頼の徒はいうまでもなく、職人、下僕、低い素性の者は参加できなかつた¹¹⁾。

チベッチーノ (Civettino) という一種の手球もカルチョと同じような状態で行われたようである¹²⁾。

ルネサンスにおけるイタリアのスポーツは、このような貴族的なものばかりではなかつた。

当時のイタリア諸都市では祝祭的な行事が盛んに行われ、そこで種々のスポーツが、いろいろの様式で行われていた。なかでも15世紀におけるローマのカーニバルは、その代表的なものであつた。ここではいろいろのスポーツが行われたが、そのなかには、馬、水牛、驢馬などの競走や、老人、若者、猶太人の競走などもあつた¹³⁾。

水の都ヴェネチアでは、早くから市民祭として水上で大ぜいの人が舟を漕ぐ祭りが行わ

れていた。またゴンドラレースも盛んで、これには婦人たちも参加して舟を漕いだといわれる。休日における若者たちの遊びにも面白いものがあつた。それは、市内の各区から選ばれた青年たちが橋上でもみあい、互いに相手を水中に落としあうというものであつた。

これらのスポーツや遊びは、階級の区別なく、一般市民の興味をひいたもので、市民にとつては楽しいレクリエーションでもあり、若者たちにとつては、エネルギー発散の場でもあつたのである。

更に農村においても、体育的活動が展開されていたことが認められる。

元来イタリアの農民たちは、他のヨーロッパ諸国に比較して、早くから自由な生活を享受していた、彼等は農村を舞台として農村的な素朴なスポーツやダンスに興じていた。16世紀になると貴族たちはしばしば小作人たちと共に踊り、力を角し、跳びくらや駆けくらをしている情景をブルクハルトは描いている¹⁴⁾。

このようにして、市民や民衆のスポーツは、中世紀のような遠慮深いものではなく、きわめて活潑なものとなり、その形式や担い手ばかりでなく、それに対する態度も変化してきた。なかには階級的区別の存在した面もあつたが、自己の実現とか名声の追求、あるいは生活の享楽やエネルギーの発散など、いわばルネサンス人の姿を、スポーツを通して見る事ができる。

5. むすび

以上でルネサンスにおけるイタリアの体育の概要を終るが、これをまとめていえば、つぎのようになるであろう。

その1. ルネサンス・イタリアにおける人文主義教育および体育は、当時の社会に広く行われたものでもなく、制度的なシステムをもつたものでもなかつた。それは都市における富裕市民や貴族階級の中で、私的に行われたに過ぎなかつた。

その2, 一般の庶民たちの間には, 早くから開放的な新しい息吹きがあり, 人々はスポーツやダンスなどを楽しむことができた。

その3. 当時のイタリアの体育およびスポーツには, 一面には貴族的な過渡期的性格が残っていたが, 他面には解放された人間の要求を満たしよろこびを与えた。この点はまさにルネサンスの特性であつて, 体育もスポーツも, その社会的現実として当然その特性を反映していたのである。

それと同時に, この体育やスポーツを通して形成された人々が, ルネサンスの展開に貢献したことも忘れてはならないであろう。

この時期の新興富裕市民や貴族たちの動向がルネサンスの表流であるとするならば, 庶民, 農民の活動はその底流というべきであつて, この二つの流れによつて, ルネサンスはその歴的役割を担いえたといつてよいだろう。その意味でルネサンスにおけるイタリアの体育もこの流れのなかで具体化し, その特性を生かしつつ, やがて近代市民体育の時代をきり開いて行く歴史的な役割をはたすことになるのである。

引用文献

- 1) **James Mulhen**: A History of Education, Ronald, p. 354 (1954)
- 2) 石山修平: 西洋近代教育史, 有斐閣, 昭和37年, 40~44頁
- 3) ブルクハルト(村松, 藤田訳): 伊太利文芸復興期の文化(上), 岩波書店, 151~152頁(1939)
- 4) **McIntosh and others**: Landmarks in the history of physical enucation: Routledge & Kegan Paul: p. 64~66. (1957)
- 5) ヴァンダーレン他(加藤橘夫訳): 体育の世界史, ベースボールマガジン社, p.136~137 (1958)
- 6) 同上, p. 136~137
- 7) 同上. p. 136
- 8) 同上, p. 138
- 9) 同上, p. 136
- 10) ブルクハルト: 前掲書(下). p. 121
- 11) **McIntosh and others**: opcit p. 63
- 12) 岸野雄三: 体育の文化史, 不味堂. p. 106, (1959)
- 13) ブルクハルト: 前掲書, p. 200
- 14) 同上. p. 103

A study of the physical education in Renaissance Italy

H. Kawamura (Nagoya University)
K. Yagi (Nagoya University)
H. Tanaka (Nagoya City University)
S. Takamatsu (Aichi Prefectural University)
T. Kawashima (Aichi University of Education)
Y. Hayakawa (Nagoya Gakuin University)
H. Kaga (Nihon Fukushi University)

To understand the physical education sufficiently in a certain period or nation, it is essential that we make a study of the physical education in the light of the cultural and social conditions of the time and place. From this standpoint, we searched for the physical education in Renaissance Italy. Generally speaking, the physical education of Italy in Renaissance reflects the characteristics of Renaissance. Its remarkable features are as follows:

1. Transitional and aristocratic feature.

The life of aristocratic and wealthy classes was the main theme of many educational theorists. Physical proficiency (skill in sports, games, dances and other activities) was desired in the life at the courts. Castiglione's "Il Cortegiano" was a prominent example.

2. Individualistic feature.

Physical proficiency in Renaissance Italy was the means of satisfaction of individualistic and egoistic desires for expression of one's abilities, fame and prestige.

3. All-sided man (homo universalis).

The aim of physical education in Renaissance Italy was a all-sided man (homo universalis). Homo universalis was the ideal of education in this period, and it was a revival of Grecian ideas.

4. Sports in Urban life.

Many popular sports and dances were played in Festivals in many big cities. At Florence, for example, the tournament was the most splendid and attractive event.

5. Sports in rural life.

In many rural communities in Renaissance Italy, we find cheerful and happy life of the people through many sports, dances and other activities.

6. In urban and rural life, sports, dances and other physical performances were recreation for both players and spectators.